

## 平成27年度 第2回

### 西宮市参画と協働に関する条例評価委員会 会議録（要約）

日 時：平成27年6月15日（月）午後6時00分～8時15分

場 所：西宮市市役所 東館8階801会議室

出席者：【委員】中川 幾郎（会長）、黒木 順子（副会長）、北川 悦久、川東 美千代、  
東 朋子、池野 雅一、森下 真

【事務局】市民協働推進課長 三村 嘉伸、同係長 松野 歳之、同副主査 後藤 理恵

#### 1. 開会

#### 2. 審議事項

##### 議題1 傍聴に関する取扱いについて

1名の傍聴を許可した。

##### 議題2 平成26年度の協働の取組の検証について

###### ○事務局

- ・協働事業提案手続の新たな評価方法（A～Eによる総合評価）について説明。  
《概要》委員7名がそれぞれ持ち点5点で評価を行い、その平均点を本委員会の総合評価とする。
- ・実施件数、事業の内容等について説明。

##### (1)「子育て仲間作り応援事業」について

###### ○委員

- ・アイデア自体は評価したいが、対象人数があまりにも少ない。協働事業として実施するのであれば、もう少し人数を増やして欲しかった。
- ・担当課の自己評価書に「繁忙期と重なったため、事業に関れなかった。」という記載があるが、協働事業として採択した以上は、業務として真剣に取り組むべきであった。
- ・対象人数を増やしてほしいなどの協働事業提案審査会の付帯意見が参考にされていない。備品の購入費が高額になっているが、手作りのできるものを使用するなどの工夫がほしかった。
- ・投資効果が薄く、事業費に対して成果が少ないように感じる。地域への拡がりや集客の努力が見られない。
- ・活動団体と市の担当課の関わりが薄く、協働事業としては不十分と言わざるを得ない。

###### ○会長

- ・担当課が繁忙期に重なったため事業に関われなかったというのは言い訳にならない。担当課は事業内容に対してもう少し真剣に関わるべきであった。

○評価

【平均点】 2.4 点

【総合評価】 D 「課題はあるがほぼ適切である。」

(2) 「学生等による船坂地区の写真の保存・活用事業」について

○委員

- ・着眼点を評価したい。
  - ・市や地域の方たちとうまく連携できている。冊子も分かりやすく作られている。
  - ・冊子の配布計画が見えない。
- (事務局) 配布については担当課と提案者とが計画をたて、地域や学校園行政機関や図書館にいきわたるようにしている。
- ・斬新な事業。いろいろな地域で広まっていくことを期待する。
  - ・団体側の自己評価書には、受益者の満足度が少し低かったとあるが、一方で行政側の評価は高かった。行政と団体との間に温度差が感じられる。

○評価

【平均点】 3.8 点

【総合評価】 C 「適切である。」

(3) 「苦楽園・夙川キャンドルナイト事業」について

○委員

- ・商業振興に関して効果が見えにくい。イベント頼みで効果が出ているのだろうか。
  - ・提案団体は商業を盛り上げながら地域を活性化し、エコの要素を加えて実施している。このような事業は一度では定着しづらい。提案団体のメンバーも増えてきているので、今後は自力での継続が望ましい。
  - ・総事業費に対する謝金や委託費が高額ではないか。
  - ・印刷製本費は圧縮されているが、消耗品費がずいぶん大きくなっている。予算の算定はどうなっているのか。
- (事務局) 26年度よりスタンプラリーを実施しており、それに関する経費が増えている。
- ・広告費の圧縮や環境・エコロジーを来訪者に感じてもらえる仕掛け作りなど、協働事業提案審査会での付帯意見を踏まえた改善が図られている点が評価できる。
  - ・本制度は3年間を助成限度としているが、補助金がなくなった後にどのように運営していくのが課題である。企業支援課と協力して事業による効果をデータで示し、それをもって協賛を募ってはどうか。

○会長

- ・地域のイベントとして今後も続いてほしいと思うが、毎年実施することだけで精一杯になっていないか。次のステップに向けて設計図を描く時期に来ており、協働事業助成金の活用による今後のストック形成について、じっくり戦略を練る必要がある。

将来的な発展・継続につなげるための助成金と捉えてほしい。

○評価

【平均点】 3.2 点

【総合評価】 C 「適切である。」

(4) 「障がい者ジョブトレーニング事業」について

○委員

- ・評価できる事業である。関係団体と連携して、他の地域にも広げて行ってほしい。
- ・関係団体がたくさん書いているが、報告書からは協力関係が見えない。
- ・事業自体は良いものだが、事業費のほとんどが謝金となっており、収支の流れや人の動きが見えてこない。
- ・報告書の内容が、前年度と変わっていない。地域で講座やイベントを行うことと、就労支援につながりが見られない。
- ・団体側の評価に、行政との考え方にずれがあるとの記載があったが、昨年度も同様の記述があり、両者の意思疎通が図れていないのではないかと思われる。

○会長

- ・事業内容と事業名に開きがあるように感じる。障害者の社会参加の促進事業としたほうが実態にあっているのではないか。
- ・事業を実施する中で、お互いの限界を知ることができた。専門家を配置する必要性を感じ、配置するに至った点は評価できるが、より良い協働事業とするためには、行政側の制度上の限界、団体側のマンパワーの限界を理解し、協議を重ねる必要がある。

○評価

【平均点】 2.7 点

【総合評価】 D 「課題はあるがほぼ適切である。」

(5) 「誰でも食育先生による体験型食育講座（園児・保護者向け食育を楽しむ会・子育てママのための食育講座）」について

○委員

- ・評価できる事業である。今後も引き続き頑張ってもらいたい。
- ・協働事業として最終年ということもあり、拡充点や地域団体との協働があると更に良かった。
- ・成果はすぐに出るものではないが、この事業をきっかけに食育が推進されることを期待する。市との協働により、少ない事業費でこれだけの参加者が得られたのは評価できる。十分な力を持った団体であり、この3年で得た信頼と事業経験を元に、今後も自立した活動を継続してほしい。

○会長

- ・3年間の事業経験を積んで、十分に自立できる力をつけているので、今後も継続してほしい。

行政と大学との協働は成功したが、今後は地域を含めた協働に発展することを期待する。

○評価

【平均点】 3.5 点

【総合評価】 C 「適切である。」

(6) 「第5回いっぽにほ～心を結ぼう～事業」について

○委員

- ・事業内容が、事業目的と整合していないように感じる。防災啓発がイベントに馴染んでいない。行政とは分業しているだけで、協働しているように読み取れない。
- ・防災啓発の講演会は同じステージで行っているのか。  
→ (事務局)『災害の備えについて』をテーマに、同じステージで講演会を実施している。
- ・昨年の評価を受けて改善が図られている。テーマが防災ではなかなか人が集まらないが、イベントとともにパネル展などを実施することで若い世代の目に触れることができた。
- ・防災に関する展示等が、イベント全体の規模に対して小規模に感じる。また、行政との連携について、自己評価と評価報告書にある課題がかみ合っていない。
- ・団体側が、一定の集客が見込めるイベントにおいて、防災啓発を図りたいと提案していることについては評価できる。行政側にもう少し工夫があってもよかったのではないかと。

○会長

- ・行政側がうまくパートナーシップを組み立てられなかったところに問題がある。来場者に対してどのように啓発すればいいのか、もう少し考えてほしかった。
- ・行政は、人手が足りないのであれば、むしろ協働事業を増やすべきである。協働のパートナーを作れば作るほど、行政側の人出が不足していても、事業を実施できるという流れが作られる。

○評価

【平均点】 2.5 点

【総合評価】 D 「課題はあるがほぼ適切である。」

<議題2の評価結果一覧>

No.	事業名	平均点	総合評価
1	子育て仲間作り応援事業	2.4	D
2	学生等による船坂地区の写真の保存・活用事業	3.8	C
3	苦楽園・夙川キャンドルナイト 2014	3.2	C
4	障がい者ジョブトレーニング事業	2.7	D
5	誰でも食育先生による体験型食育講座(園児・保護者向け食育を楽しむ会・子育てママのための食育講座)	3.5	C
6	第5回いっぽにほ～心を結ぼう～	2.5	D

### 議題3 参画と協働の取組みの検証方法の見直しについて

#### ○事務局

市の参画と協働の取組みの内、現在未評価となっている項目（主に附属機関、共催・実行委員会形式以外の協働事業）を含めた今後の評価方針について事務局案を説明。

本事案に関する審議は、今後の評価委員会に持ち越しとする。

### 3. 事務連絡

・第3回、第4回の評価委員会の日程は以下のとおり。

【第3回】 7月7日（火） 【第4回】 7月23日（木）

### 4. 閉会

以 上